

- ◎向日市民憲章◎
- 1 住みよいまちを力を合わせてつくりましょう
 - 1 きれいな緑と水と空を守りましょう
 - 1 働くよこびと心のふれあいを大切にしましょう
 - 1 すくれた教育と文化を育てましょう
 - 1 明るいくらしと福祉のまちをきずきましょう

◎発行 向日市役所(京都府向日市寺戸町中野20)
 ◎編集 広報広聴課
 ◎電話 075(931)1111

昭和51年度 決算額は43億円に

借金財政じやないか

◇…昭和五十一年度の決算がまとまり、さる九月の市議会で…◇
 ◇…認定されました。世界的な不況の波は、私たちのまちに…◇
 ◇…も押し寄せ、住民のくらしを守る「台所」もますます苦…◇
 ◇…しい状態になっています。昭和五十一年度の一般会計で…◇
 ◇…は、実収支約二百二十万円の黒字決算となりましたが、…◇
 ◇…実際は借金財政で少しも「ゆとり」はありません。…◇

△一般会計の規模と収支▽
 一般会計決算の規模は、社会経済の発展、市民生活の向上にもなっており、行政需要が増大しているため、年々増加しています。

△決算額の増加理由▽
 五十一年度の一般会計決算額は、歳入四十三億四千八百五十五万五千円(前年度比七億七千二百六万五千円、一九・四%の増加)、歳出四十三億二千七百五十三万七千円(前年度比六億九千四百七十五万五千円、一九・一%の増加)です。

△決算の特徴▽
 前年度からの繰越金、土木費の増加があげられ、八百五十三万三千円が含まれていますので、単年度収支では、これを差し引いた千二百五十一万五千円の黒字となっています。

△黒字のうららに 毎年ふえる市の借金▽
 五十一年度決算について、先にみたように、一応黒字という決算になっています。しかし、ここでもう少し詳しく市の台所をみてみましょう。

① 市税の若干の伸び(前年度比一六・八%の増加)
 ② 行政比重の中で、教育費が予算総額の二三・二%、民生費が一九・五%も占めていること
 ③ 自主財源(五四・二%)と依存財源(四五・八%)の割合が前年度に比べ自主財源の比率が四・八%も悪化していること
 ④ 投資的経費が前年度より四・九%上昇していること

△行政比重について▽
 歳出決算状況をみると、先にも触れましたが、教育費(二三・二%)、総務費(一九・九%)、民生費(一九・五%)、衛生費(一一・六%)、土木費(九・四%)の順になっており、教育・民生部門に行政比重がおかれています。

私は、市長就任以来、清潔で明るい市民本位の市政の確立をめざして、人間尊重を基本理念として、豊かな生活環境の向上に努め、住みよいまちづくりを基本姿勢として市民の福祉を高めるために行政を推し進めてきました。

しかしながら、昭和五十一年度に顕著となった地方財政危機は、その後も好転せず、五十一年度においても依然厳しいものがありました。

わが国の経済もまた、構造的な不況に落ち込み、しかも反面、物価はやや落着いたかにみえたとは言え、依然上昇を続けています。このため、五十一年度では、財政危機に対処して行政運営の効率化に努力してきました。

したがって、当初予算においてはできる限りの歳入の確保をはかるとともに、財源の重点的配分に努めつつ、不況下の市民のくらしを守り、くらしに直結した緊急事業を特に優先し、緊縮の中にいたしてきました。

また五十一年度においても一応の黒字決算となりましたが、市民のみならず、議員各位のご理解とご協力を得て、しめのごく小さな事業すら実施が困難な状況になっています。市の台所が苦しくなれば、みなさんの日常生活にも少なからず影響が出てきます。

しかし、この苦しい中にあっても、私たちは住みよいまちづくりを進めていかねばなりません。このため市でも、事務経費などの節約とともに、超過負担や国と地方の税配分の問題などを改善するように、国に強く働きかけています。

市民のみならず、本市の苦しい財政事情をご理解いただき、市政にご協力をお願いします。

51年度決算報告

厳しい財政の中で 市民本位の行政を

秋市長 市民本位の行政を

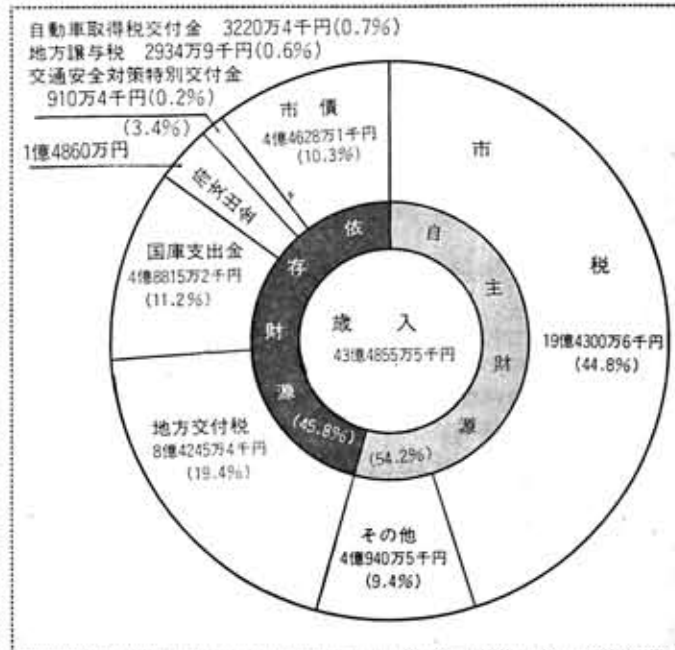
その後、市税収入の増収、市債の積極的導入等により、市民の福祉を高めるために補正を働きかけています。

市民のみならず、本市の苦しい財政事情をご理解いただき、市政にご協力をお願いします。



市長 秋 市民本位の行政を

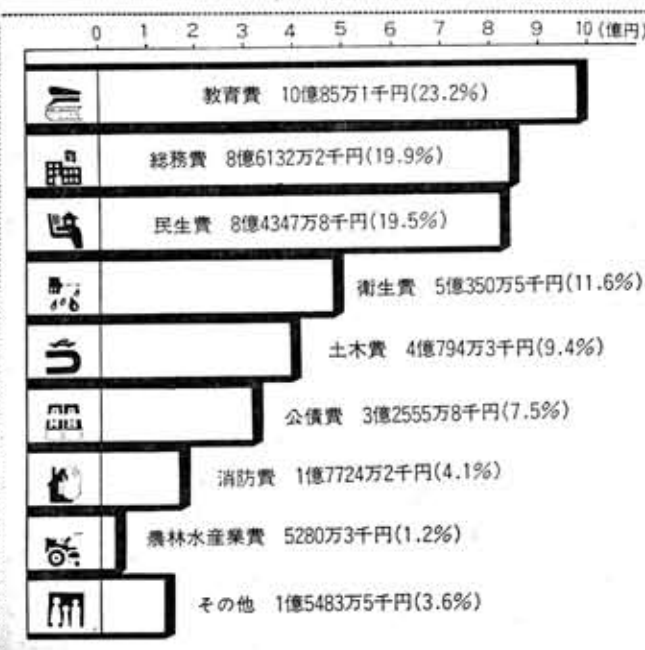
歳入決算額 (43億4855万5千円)



市民1人あたりは



歳出決算額 (43億2753万7千円)



たばこは市内で買いましょう